

なら七口

桐口から帯解へ 上街道

上街道は、伊勢参りで有名ですが、もともと大和にとって中心的な道でした。大和国中(くんなか)の重要都市<帯解、櫛本、丹波市、柳本、三輪>を結び、明治31~32年にはこの重要道に沿う形で鉄道が敷設されました(旧・桜井線)。かつては乗合バスも通っていましたが、昭和43年の天理街道(国道169号線)完成以来、上街道は次第に静かな道になっていきました。

また、京都から長谷、吉野、熊野へ向かう道として、松尾芭蕉など歴史上の有名な人も数多く通ったと考えられます。

遠くに若草山が見え隠れする、奈良随一の歴史文化の道をお楽しみください。

行程の目安

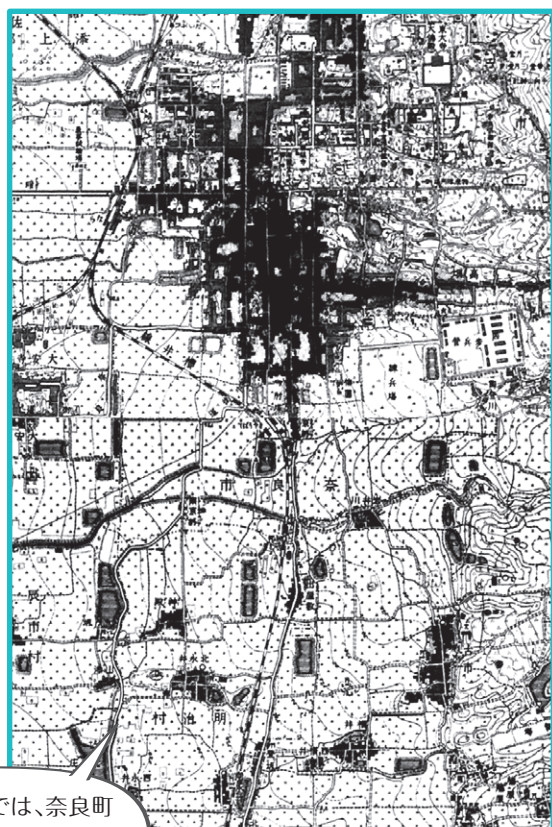
近鉄奈良駅

起点

(おおよその直線距離で測定)

●JR帯解駅まで	約5km
●JR櫛本駅まで	約8km
●天理駅(近鉄・JR)まで	約10.5km
●JR柳本駅まで	約16km
●JR三輪駅まで	約20km
●長谷寺まで	約27.5km
●伊勢内宮まで	約120km

奈良町
にぎわいの家
から
約4km



出典：明治45年測量図 2万分の1正式図(国土地理院)

昔の地図では、奈良町の外は田んぼが多くて、道は少ないね。

⑤猿田彦神社

博打の神さんとして親しまれている。

⑥奈良町にぎわいの家

大正生まれの奈良町家。登録有形文化財



⑦元興寺塔跡

安政6年(1859)焼失。興福寺五重塔より高かったという。

<上街道が繁華街!> 汽車もなかった時代、京街道と伊勢街道の中間にあった上街道は産業道路、観光道路として非常に繁栄。交通の要衝として、いち早く舗装され、アーケードの前身の天幕も張られたという。

⑧御霊神社

延暦19年(800)桓武天皇の勅願により創建。氏子の範囲は75村3000軒にも及び、秋の御渡式は華やか。

⑨ならまち格子の家

奈良町の伝統的な町家を再現

⑪紀州藩屋敷跡

旧五条大路と上街道の角。紀州55万石の参勤交代の時に使われた。長谷川一夫、坂東妻三郎、大河内伝次郎などが時代劇を撮ったという。



⑫桐神社

弘法大師が杖を挿したところ芽が出たので神木として祀ったという。旧名、桐町。この町に南都南口惣門があったという。また、大正期まで鹿よけの門があったと伝える。



⑬JR京終駅

明治31年の木造平屋建て駅舎を平成30年に復元。京終駅舎カフェ「ハテノミドリ」。材木場や青果市場などがあり、奈良町の南口として賑やかだった。

⑭常夜燈

文政13年(1830)の伊勢参りが盛んな頃に建てられた。かつては道を挟んで立っていた。この道筋が桐口(肘塚口、帯解口とも)。



車がビュンビュン通るから気を付けて!

天理線(国道169号線)



今の地図だといろんな道との区別がつかないけど、旧街道は歩き出すと、わりと一本道だよ。荷曳く馬や牛に飲ますために、道沿いに水路があることが多いんだよ。

今回のゴールはここ! 続きを歩くなら、どんどん南へGO!

⑮ティチク跡/元興寺文化財研究所

昭和9年(1934)創業の老舗レコードメーカー「ティチク」の本社があった。パタヤンや裕次郎も吹込みに来ていた、とか。

⑰青井神社

トタン倉庫の間。小野小町が21日間、井戸の水をかぶって疱瘡を治したという。水質が良かったと伝わる。



⑲帯解

奈良町を出て最初の宿場町で、五ヶ谷街道の交差点に当たる。戦国時代には西方に今市城があり「今市を制する者は南都を制する」と云われた。歴史的にも古く、広大寺池は垂仁天皇が築き、聖徳太子が池の南に寺を作ったと伝わる。明治天皇行幸の碑も建つ(御所覧場ごしやらんば)。毎年7/23、24に地藏盆の屋台が並ぶ。

⑳帯解寺

子安地藏で有名。天安二年(858年)文徳天皇の勅願。皇后藤原明子が春日明神のお告げで拝んだところ後の清和天皇を無事出産したとされる。小野小町を祀る宮もある。

㉑龍象寺

光明皇后安産のための聖武天皇の勅願所として天平二年(730)行基の創建という。山門は藤堂藩古市屋敷から移築。付近は柳生藩の領地で、寺前の坂は正木坂と呼ばれ、近くには柳生藩の出稽古場があったとの話も。また、寺前にはかつて宿屋もあり、天誅組の志士も泊まった。



㉒JR帯解駅

明治31年(1898)設置。大正時代、後にも先にも一度だけお召列車が停まったとの話が残る。



近鉄・JR奈良駅へはバスもあります
<169号線の「下山」または「窪之庄」バス停>

出典：地理院地図に目印や線を追記して掲載

②⑨ 高井病院

上街道沿いの名医さんから、こんなに大きい病院に！

②⑨ 蔵之庄～榎

この辺り、手入れの行き届いた家並み



③⑩ 榎神社

『日本書紀』崇神天皇の条に出てくる古い神社。子授け。奈良には「榎吉」など「榎」のつく名前の人が多かった。江戸後期、当代一の花形役者・八代目市川團十郎が奉納した三枅井（みますい）の井戸が残る。



③⑪ 榎本

近世～近代の大和国中（くんなか）を代表する町。市が立ち、芝居小屋も毎週開かれ近在から人が集まった。昭和に入っても銀幕や演歌の大スターが料亭を賑わせたとの話も。歴史的には古事記の応神記に「榎井の丸邇坂（いちいのわにさか）」とあり、大和王権の豪族・和珥氏の本貫地。柿本人麻呂や在原業平にもゆかりを持つ。

③⑫ 大阪府奈良警察署榎本分署

天理教教祖中山みきが明治19年（1886）拘留されていた。

③⑬ 馬つなぎのある家

市に来る商人の馬をつないだ木杵が残る。

③⑭ 在原神社

平安歌人の在原業平を祀る。江戸期の旅人にとっては有名な観光名所。

③⑮ 大きな家並み



③⑯ 天理本通商店街を横切ります。



④⑰ 丹波市跡・市座神社

古くから丹波市村に市場が開かれていた。藤堂藩の宿場町として早馬も置かれていた。昭和29年に、この地に天理教の本部が置かれていたことにより天理市と名づけられた。



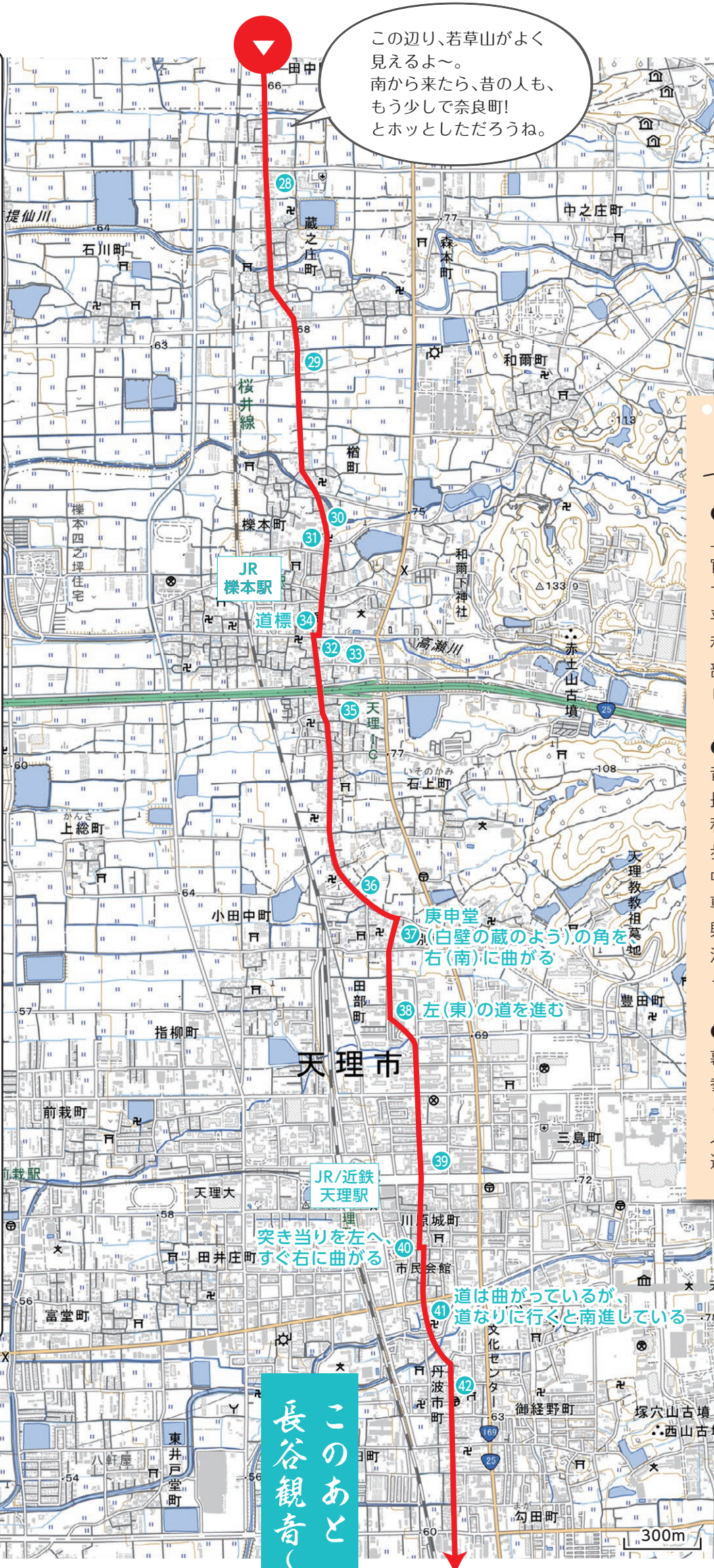
丹波市跡

市座神社

落ち着いた町家や古民家が並ぶ上街道は、街道歩きの魅力がいっぱい詰まってるね。



出典：地理院地図に目印や線を追記して掲載



この辺り、若草山がよく見えるよ～。
南から来たら、昔の人も、もう少しで奈良町！とホッとしただろうね。

七口メモ

●上ツ道と上街道

上ツ道は日本書紀にも記された官道のひとつで、奈良盆地を縦断する中ツ道、下ツ道に平行する。平安時代以降も長谷詣などで利用され、近世に天理以北の一部区間が西にずれて、今回紹介している「上街道」と称された。

●昔の旅は・・・

昔の人の旅日記を見ると・・・。
長谷から。朝から二里歩いて三和につき大明神（に参る）、一里歩いて柳本、また一里で丹波市、中食を取って、二里で帯解地蔵尊、一里で奈良へ、御霊神社、元興寺の五重塔に上り、今御門で泊まる。＊一里は約4km
<天保6年（1835）>

●超密！お伊勢参り

幕末に何度かあった「お伊勢参り/おかげ参り<文政13年（1830）>」では、80日で427万人も参拝した、とか。道にびっしり・・・！？

長谷寺へ



長谷から伊勢へ



このあと
長谷観音へ伊勢へ

- ・大和神社：戦艦大和の名前の由来
- ・柳本：柳本藩があった。黒塚古墳、長岳寺、崇神天皇陵などが有名
- ・箸墓古墳
- ・三輪（大神神社）から、金屋、つばいち跡（旧家の家並み）を経て、長谷、伊勢へ・・・

歩行記録

令和 年 月 日 () : ~ :

同行者

休憩場所

掛かった費用 交通費

円

発行：奈良市伝統文化いきいき実行委員会 奈良町にぎわいの家管理共同体

本事業は令和2年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）の補助を受けて実施しています。

